

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号		院生氏名	貞清 香織
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論文題目	要支援・要介護高齢者の体組成成分の基礎調査 ～若年者と地域在住高齢者との比較を通じて～		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>本研究は、若年者、高齢者、要支援高齢者、及び、要介護高齢者を対象とし、同一の体組成測定器を用いた測定により、体組成の比較から健康寿命を延伸する因子を明らかにすることを目的とした。これまで報告が少なかった脂肪量、FFMI (Fat-free mass index)、FMI (fat mass index)、及び、新たな指標として FFMI/FMI についても検討した。対象者総数は、若年健常者、地域在住高齢者、要支援高齢者、及び、要介護高齢者を合わせて 375 名である。体組成測定には InBody520 (インボディ・ジャパン社製) を用い、体重、BMI、体脂肪率、全筋肉量、除脂肪量、体脂肪量、及び、四肢・体幹筋肉量を測定した。また、身体機能の指標として握力を測定した。その結果、各部位の筋肉量と FFMI については、要支援・要介護高齢者で低値を示した。FMI は男性では要支援・要介護高齢者が高値を示し、逆に女性では、要支援・要介護高齢者で低下がみられた。これらの結果から、FFMI と FMI は要支援・要介護高齢者の体組成の特徴を示す指標となり得ることが示唆された。さらに、本研究で新たに導入した FFMI/FMI に性差がみられた。即ち、男性では要支援・要介護高齢者で低値を示すのに対し、女性では要支援・要介護高齢者で高値を示した。以上の結果から次の2点が示唆された：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 体組成評価は介護を予防し健康寿命の延伸のために重要な指標となり得る。 2) 体組成評価は性別を考慮し、筋肉量だけでなく脂肪量の増減にも着目することが重要である。 <p>本研究は国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を受け適切な方法に基づいて実施された。結果の解釈、及び、論証は妥当であり、主論文の形式は適切であると判断された。</p> <p>本研究の新規性は、同一の体組成測定器を用いて測定条件を均一化し、データ間の比較の信頼性を高めた点、対象者の年齢に加え性差に着目した点、及び、性別ごとに脂肪量の増減にも注目して解析し、新規な指標として FFMI/FMI を導入した点にある。本研究は健康寿命を延伸するために、年齢・性別に応じたどのような体組成因子を維持することが重要であるかについて示唆に富む見解を提示し、高齢者を対象とした健康科学の推進に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>審査経過においては、論文題目、対象者の属性と基礎疾患、用語の変更、及び、述語の説明について修正が求められ、各指摘事項について適切に修正された。口頭試問においては、データ解析における問題点、及び、今後検討すべき事項について意見が出され、これらの質疑に対し適切に応答した。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	山下 勝幸	
	副査	森田 正治	
	副査	金子 秀雄	